

# 祝 100号



発行所  
興行寺教化部

福井県吉田郡永平寺町藤巻34-2  
電話 0776-64-2744  
FAX 0776-64-2791

新田塚道場 (支坊)  
福井市新田塚2丁目46-26  
電話 0776-26-1191  
FAX 0776-26-7868

## 百号を祝して

福井教区吉田組 組長 高倉現進

『興行寺新報』百号の発行、誠にめでとうございます。創刊されてから実に五十年以上(昭和四十三年

## 百号を迎えて

総代 今井克己

興行寺新報百号発刊、誠にめでとうございませす。単純に計算しても百号二年二回ということですから、五十一年の長きにわたり発行を続けてこられました。ご任職にはありがたうございました。今後ともよろしくお願いしますというお礼と感謝の言葉しか見当たりませぬ。

またこのような節目の時期に、名ばかりではありませんが、総代ということで、お寺との関わりをもたせていただいていますことに感慨深いものがあります。

お恥すかしいことに私は六十歳を越えて数年がたつ今でさえ、お寺のことになるとわからないことだらけです。でもそんなときはご任職にそして長老の方々に聞くことにしています。

お寺との関わり方も時代と共に変わりつつあることも事実ですし、変わって

から)にわたり、その時々

の情報を発信し続けてこられた努力に心からの敬意を表します。また、百号を迎えた背景には、ご任職様をはじめ編集スタッフの皆様

の熱い想いと、その情報を

楽しみに行っている多くの読者の支えがあったからと拝

かなければ立ち行かないこ

とが見えてきたことも事実だと思えます。

しかし一番怖いのは個々の判断でお寺との関わりや

察いたしております。

以前より、ご住職様には並々ならぬ知識とご教養の深さを会話の端々からも窺い知ることがあり、その素晴らしいお力がかうした情報誌の発刊となり、継続されていることに敬意を表すると共に改めてお祝いを申し上げます。

『興行寺新報』の特徴は、多種多様な記事内容と広範囲の読者にあります。毎月

## 興行寺新報百号に寄せて

仏教壮年会 会長 柴田喜代美

元号が令和となった記念すべき年に興行寺新報が百号を迎えられるとのこと、誠にめでとうございませす。そしてこれまでの住職の不断のご努力に心から敬服します。新報には寺での行事はもちろん各団体の活動、時々世相を真宗の立場からどうとらえるかなど、多岐に渡る話題が掲載されており、非常に読み応えのあるものだと感じて

私がお寺に邪魔するようになつたのは父の死後、仏

## ホームページのご案内

平成25年より、興行寺のHPが新設されました。昨年4月の法要の模様、今春の桜の開花便りなど、どうぞご覧下さい。

URL

<http://www.kougyouji.jp>



携帯・スマートフォンのバーコードリーダーで読み込んで下さい。



現代を生きる私たちが抱えている課題を三十数年前の方がやはり真剣に考えていたことがうかがえます。スマートフォンはおろか携帯電話もなかった当時から人間はなにも進歩していないというのではなく、いつ

の時代にも人の悩みや人生の根源的な問題は変わらないのであって、親鸞様、蓮如様の時代から真宗はこのような普遍的な問題に苦しむ人々に救われる道を示してきたのでしよう。

過去の新聞を改めて拝見し、いろんなことを考える機会となり、文字に残しておくことの大切さを感じました。これからも新報を継続されることを心から望み、微力ながら私も応援させていただきます。

興行寺新報がこの秋百号を迎えるとの報は、あたり

が桜色に染まる日、耳に。百号という響きと春一杯の季節が一つになり、華やかと勢いを感じさせました。

## 百号に寄せて

仏教婦人会 副会長 山田二葉

興行寺新報がこの秋百号を迎えるとの報は、あたり

この秋、興行寺新報百号

手にした時、役員個々の考

えが生かされた内容となっているはず

役員会の後、庭を巡り

した。しだけ桜は満開の時

# 百号を迎えて

元総代 小林信慈

興行寺新報が百号発行に達しました。時あたかも新元号令和元年という意義深い年です。不思議とも思えるご縁にとても感動しました。

私は興行寺新報に特別な愛着を抱いています。若い頃から宗教心の大事さは理解していました。しかしお寺に行つて法話を聴いたり宗教の本を買つて来て読むような余裕はありませんでした。そんな時に（昭和四十年）興行寺新報が創刊され手にしました。以来、その新報には「浄土真宗教章の解説」や「幸福を求めて」とか「今を生きる道」人生の流れを変えようなど魅力ある法話が連

## 何故新報か

お陰さまで興行寺新報も百号を迎えることが出来ました。ご門徒の皆さまのご理解とご協力よつて発行を続けることが出来ました。ご本山の式務での勤めを終え、自坊に帰山。いよいよ住職として出発することになったのは昭和四十三年でした。（二十九才）

まず第一に門徒さんを知るということでした。各区分け、集会を開き、門徒さんとのお話でした。そして門徒台帳の作成の第一歩でした。知ること

の重要な基本となりました。今も初参式の案内、小学生のサマースクール、成人式のお祝、亡くなった方の俗名を一字入れて法名をつけてもらおうとか、色々活用させて頂いています。秋まわりの時、赤ちゃんが生れたり、結婚されたりの時、追加記入させて頂いて頂いています。内部秘です。さて、話は新報にもどし、初刊は昭和四十年で、第十九世坊守の亡くなった後四十二年に二号を発行、四十二年より二年二回を基本として続けてきました。よく何故新聞なのかと聞かれますが、私自身新聞が好きであること。今も

非常に由緒あるお寺のこと、今後いよいよご法義ご繁盛の道場として立派に活動してもらいますことを切望して止みません（後略（第四〇号より））

当時世の中は、生活は豊かになつたけれども、核家族や独居老人世帯、家庭内暴力が増えつつありました。前門主様はこのことを嘆かれ、お寺の使命として何とか世直しをしなければならぬと思われたのでしよう。その真摯な表情と熱意にすぐ心打たれました。何とかして宗教心の衰退を止めなければと思いました。それ以来、もう三十年が経過しました。世の中は相変わらず念仏のみ教へと逆の方向に流れ、更に犯罪や自殺が増え、人口減少という危機的な事態を招いてしまいました。この事態を「時の流れだから」と諦めたら未来は絶望です。どのように改善したらよいのでしよう。

私は百号発行達成を知つて、久しぶりに全号を取り出して一枚一枚目を通しました。そして「各寺の門徒家がこの事態を憂い、わが人生を変えようとお寺を通して阿弥陀如来のみ教を学び始めたら、その雰囲気や少いでも盛り上げることが出来る」と夢見た次第です。さて、わが寺興行寺はどうでしよう。私はご門主様のご期待に添えて立派に頑張つて来ていると思えます。その証が興行寺新報に記されている内容であり、五十年間も発行を継続して来ていることです。この

家を幼稚園で四紙を購読しています。それと叔父が武生で「福井日々新聞」という小さいローカル新聞を作っていました。よく遊びに行つて活字を拾うのや編集のことなど見て興味をもつたこと。それと私自身、話術というのは苦手でとても布教師にはなれない（文章もうまくないですが）活字でうつつたえて文章伝道を行こうと云う思いで発行したので最初でした。今、ホームページやスマホなど全ての情報が得られる時代、はたして読んでいただけるかどうか心配ではあります。百号で終わろうと思つてしまいが、「もつと続けて欲しい」と思っています。（住職）

載されとても勉強になりました。その上お寺の出来事や門徒仲間の消息などの報告もあり次第に関心が深まりました。新報発行の熱意にほだされ仏教壮年会に入会。活動に参加して親睦も深まつた次第です。新報は大変意義のある貴重なものです。今新報を手にはつてこれまでの思い出がはつきり目に浮かんで来ます。今も忘れられないのは、興行寺山門落慶法要の際に、当時の前門主様がご親教の中で語られたお言葉です。

前略 三度もお会いする機会を得ました。それだけ因縁の深いことを嬉しく思います。――中略――

また、字を読みやすく大きくして欲しいとの声にも答えていきたい存じます。将来は行事のお知らせや亡くなった方々のお名前前の簡単なものになるかも知れません。皆さまのご意見を聞き、ご協力いただきながら前向きに進みたいと思つています。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。又、今回も吉田組々長様初め総代、各団体の方、お祝の原稿をいただき、感謝申し上げます。これも大切な励みとして努力していきたいです。（住職）

新報によつて、由緒ある興行寺の歩み、歴史が記録として残る訳です。これは興行寺の宝であり、門信徒の誇りです。この宝はご住職の宗教人としての高邁な識見と責任感、情熱の賜です。興行寺門徒のご縁に対し、改めて幸せに思い感謝

する次第です。米寿を迎え、余生が少なくなりましたが、永遠に生きるが如く浄土真宗のみ教を学び続けたいと思つています。未永く興行寺新報を発行し続けて頂きたいものです。益々のご発展をお祈り申し上げます。

各区分の門徒の心の寄り所として永く存在した道場を後世にも残していきたいものです。

## 清水荒川道場 解体

### 解体

旧上志比村清水区に於いて永く存続していた道場であったが、道場守をしていただいていた酒井宗二さんが本年一月一日に往生されました。道場維持が困



難となつた為、荒川同行七軒が集まり協議の結果、おしまれつ、道場を解体との結論に至つた。令和元年六月三十日住職の元遷仏法要を行い御本導は興行寺に頂けることとなった。（大谷記）

永平寺町下合月道場があり、三沢光広氏が道場守をしている。集落センターの中にある。以前は単独で道場があったが古くなり、センターとして道場も中に入った。毎月定例布教が行われ聴聞の場として、区の方々寄り合いの場所となっている。他に永平寺町光明寺道場がある。門徒数も段々と減つて来たが、お講を行っている。秋まわりの后、門徒の方が集まり報恩講をつとめる。道場役の人が管理する。以上の道場はまだ健在

## 振り返る 平成の三十年

三十年で時代も大きく変化してきました。経済的にはバブルが崩壊して平成はスタートしました。平成年代に東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨など自然災害も多くありました。それと、どこへいっても外国人観光客が増加したこと。この三十年で、平均年齢が男八十一才、女八十七才と五才程延びました。百才時代と云われて健康寿命が重要で自力で生活を送ることが大切です。歩いて足を鍛えましよう。

# しだれ桜コンサート

## マリimba演奏

今年も桜も早く開花(三月二十七日)コンサートまで待つかどうか心配したが、曇りの日が多く四月十四日のコンサートまで長い期間散らずに楽しませてくれました。

当日、早朝から天気予報は屋頂より雨という予報朝は陽ざしもあり外で行えるのではと用意を行いました。が、やはり十時頃より雲行きがややしくなりポツリポツリと小雨も降り出し急遽、本堂内で行うことに決定。マイク設備や移動や舞台設定など大変でしたが、十一時開演に間に合いました。

今回はマリimba奏者の山崎智里さんとフルート奏者の三屋風さん(勝山)の力強い演奏でした。約一時間間色んな曲を演奏され、打楽器の楽しさを味わうことが出来ました。

本堂内の立見席が出る程で堂内には百五十名が集まって頂きました。多く

の方に見て頂き、すばらしい迫力ある演奏で楽しみ、大変好評でした。

山崎智里さんは新田塚幼稚園の卒園児の二児のお母さんで、母の会々長を何期か勤められました。現在、育成と公演活動をされている。何年か後、又演奏して頂きたい。来春のコンサートは久しぶり、ゲンさんの演奏会の予定。



### 多かった桜見物

四月六日、福井新聞に「みなぎる生命・しだれ桜満開」という題で四百年を超えたしだれ花と大きく

## 華蔵会だより

### ◇ 仏教壮年会

去る六月十六日(日)第四十三回総会が開かれ、平成三十年度の庶務及会計報告がなされた。令和元年の行事予定及予算の審議可決された。又、役員改選も行われ次のように決定しました。

- 会長 柴田喜代美 片瀬
- 副会長 但川 隆治 郡
- 副会長 安久 輝和 大味下

### ◇ 仏教婦人会

年二回、興行寺の奉仕活動を行っており、四月、七月と行った。六月は吉田組仏婦大会に参加した。

仏婦の参加者も多く楽しみにしているのが、お寺へ憩う会である。

### 副会長

- 大沢甚右工門 片瀬
- 庶務会計 多田文男 藤巻
- 坪田英幸 田端
- 監査委員 松山隆重 比島

### 敬称略

会員加入を呼びかけましょう。

写真で報道された。記事では「火災や大雪の被害を乗り越えてきた名物桜は生命力にあふれ、今年も薄紅色の美しい花を次々と咲かせた。五日時点ではほぼ満開の状態となった。広がるように垂れ下った枝ぶりも風情を醸し出している」二部紹介。

六日(土)、七日(日)は多く人出でにぎわい、下の



4月25日の蓮如上人御忌法要の昼食後、速夜法要までの休憩時間に今回は勝山のハーモニカクラブの「ザ・レインボ」の演奏が行われ。門徒の柳原さんの紹介で11名の演奏で参詣の方に楽しんでもらった。

境内の駐車も常に一杯になり、見物客も続いた。今年には特に花も多くつき、見応えのある桜だった。FBC、TVでも四月四

### いのちを大切に 初参式

いのちを大切に、ありがとう。初めて阿弥陀さまにお参りする初参式が作る五月二十六日(日)に宗祖親鸞聖人降誕会共に行われた。



今年はお参りいただきました。お参りいただきました。お参りいただきました。

いきました。

### ◇ 土曜学校

今年は一学年が多い。保護者のご理解がないと続かないが毎月全員で四十

五名以上の参加者がある。

日北陸三県のTV局が各県一ヶ所ずつさくらを紹介する番組に放送された。マリimba演奏はケーブルTVで紹介された。

- 三澤 葵衣ちゃん 福井
- 酒井 笑菜ちゃん 清水
- 細川 佳乃ちゃん 福井
- 皆川 心優ちゃん 福井
- 松浦 歩夢ちゃん 福井
- 野村 柚愛ちゃん 福井
- 野村 実生ちゃん 福井

### 式台階段工事

この程、式台の階段が古くなったので、義岡藤四郎氏に最後に残っている木材(ケヤキ)で新しく式台の階段を工事を行ってもらった。門徒会館から本堂入口まで廊下全て、この木材になった。式台と門徒会館に網戸を新調。今まで虫や小動物などを侵入してくるのを戸を開けておくことも出来なかつたが、この程、新しく出来、風通しもよくなった。

### 着物で散策

永平寺町の町づくり団体「ZEN熟」の主催で六月八日、着物を着て上志比地区を散策ということ興行寺にも外人を含め、二十名の男女が来寺、中庭でしだれ桜の樹木を見たり、庭園散策し、本堂にて若任職の法話を聞き、昼食には報恩講料理を百八十数年前に作られた朱漆碗にて味わった。

# 楽しいサマースクール

今年のサマースクールは八月五、六日酷暑の中、四十一名の小学生が参加して無事終わった。

参加した子ども達は「いっぱいせんをかんじですごくよかった」「おりんびつで、いっぱいあそんでたのしかった」「ごほんのとき、きらいなものもたべられてよかったです」「はりができてなかつたところもあつたけど、ほんのみんながてつたてつてくれて、うれしかったです」「ぼくはほとけさまのおはなしをきけてよかつたと思います」「奥田先生のおはなしで、かち・まけじゃなくてそれぞれがががやいているというのをわすれないようにしたいです」「勝ち負けにこだわらず今年が一番楽しかったです」「周りがうれしく楽しくなっている自分も楽しくなりました」

当日の模様を六日「日刊県民福井」に感謝の心という題で、大きな写真入りで報道された。

### ネパールの旅延期

春号で「ネパールへのお誘い」を五月六日より十日までお知らせしました。急遽諸事情によって明年二月十七日(日)より二十二日(土)まで六日間と変更になりました。二月は一番ヒマラヤを撮影するのに最適の時期だそうです。どうぞご参加お待ちしています。十二月末までにお申込み下さい。

### 住職雑記

○昨年の猛暑に比べ最初涼しい夏であつたが、後半やはり暑い日が続いた。○来春、ネパールに行く予定ですが、インドは十一回行く機会に恵まれました。インドは海外で一番最初に訪れた国であり興味がある。摩訶不思議な国です。書店でインドの本を見つけると、そのつど買求めて百八十二冊になった。旅行記がほとんどで、体験されたことを書いておられおもしろい。本堂の本棚に、興味ある方に読んでもらおうと全巻移動しました。お気軽にもっていつて読んでください。○近所のご門徒の方にしだれ桜を後世に引き継いでもらおうと接ぎ木をして頂き、中庭に植え、昨夏は毎日水をやっていました。今春、気づいたら失くなっていました。それにシヤクナゲも失くなっていました。何とかかなしいことで、がっかりしてしまいました。



タベのつどい

卒園児保護者の声(第四十九回卒園)

「できっこないをやらなくちゃ」

三年間ありがとうございました。

あつという間の三年間で、楽しいことや育児に悩んだこと、上手くいかなかったこともたくさんありましたが、どれもいい思い出になったのも、大好きな新田塚幼稚園に出会えたからだと思います。

なかでも、年長のイベントの運動会はとても感動しました。運動会のリハーサルの時です。走るのが嫌な子や、負けそうになって走るのを諦めてしまった子、

色んな子がいます。そんな仲間が掛けそうなのに、走り終わった子も涙が、敵味方関係なしに、みんなが自然と「できっこないをやらなくちゃ」の歌詞「あきらめないでどんな時も君なら出来るんだどんな事も」と歌って応援していました。

子供達から、先生方から「あきらめない心」「仲間を思い優しい心」の大切さを学びました。新田塚幼稚園に出会えたこと、尊敬できる先生方に出会えたこと、新田塚幼稚園の可愛い仲間達に出会えたこと、幸せです。ありがとうございます。

「自分が恥ずかしく」三年間お世話になり、本当ありがとうございます。

「つぶやくこと」今できることを精一杯すること。

命を輝かせること命の無駄使いをしないこと。新田塚幼稚園の先生方のおかげで知ることができ、考えることができました。

Kがいつもおしっこがもれた状態で帰ってきたり、靴が逆のまますごしたりしていた時、どうしてだろう、どうして見てもらえないのだろう、と先生方をせめる気持ちでいっぱいになりました。しかし、そのことを園長先生に訴えた、次の日から、トイレの回数を増やしたり、靴に目印を付けたりと、すぐに対応していただきました。自分が恥ずかしくなりました。どうして先生方を責める気持ち

「人生の何よりの財産」幼稚園での三年間に息子

春のしだれ桜、秋のイチョウのじゅうたんを自由に見に来て下さい。どうぞお参り下さい。

「たくさんの気付き」新田塚幼稚園の先生方、長男が入園してから三人の子どもが通わせていただいた九年間、本当にお世話になりました。

「自分(親)の気持ちを」一歳半のときから、幼稚園にお世話になりました。今までのいろいろな楽しい経験や園から教えていただいたこと、たくさんありますが、『自分(親)の気持ちをつぶやくこと』が私のなかで

「園のお便り」嫌だと思ふ事をやらなければいけない時、今まで私はそれなりにこなして早く終わらせる事ばかり考えていました。でも与えられた事を自分でする一杯でやってみると、世界が広がって自信に繋がるといふ事やどうしても辛くなった時、逃げたのではなく、素直に助けを求める事など、だぶん園のお便りなどで先生方の正直なお話を聞かせていただくにつれ、分かった事だと思えます。

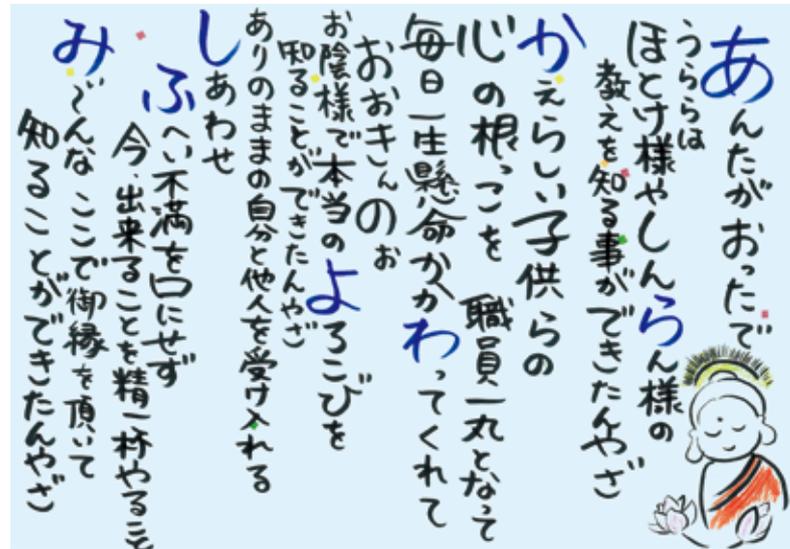
また、相手の気持ちを想像して寄り添うことのできる寛大な心を持ち続けて成長してくれていることがとても嬉しく誇らしく思っています。感謝しております。

一杯になつて、疑心暗鬼になつて今、親として子にあげられること、もつといい方法を考へてあげられなかったのだろうと。誰かのせいにして、心をみだしている自分の姿が、すぐ対応して下さった先生の姿とあまりに正反対で、これではいけない、これが「命の無駄使い」なのではと思ひました。子育てで迷う時悩む時、いつも先生方のお手紙やお誕生会、遠足のバスの中でのお話を思い出します。ああ、そうだった。今できることを精一杯すればいいんだと心落ち着いていきます。ものすごく不安でいっぱいだった園生活でしたが、この三年間で親も子もたくさん経験と成長をさせていただけました。本当にありがとうございます。

と両親である私達が学ばせていただいた事はあまりにも多く、とても書ききれませんが、あえて一つ挙げるとすれば、何か問題が起きた時に、今起きている現象の根底に何があるか過去の自分の感情や行動を冷静に振り返って見つめる事が出来るようになったことです。一時はその場の感情に流されて失敗しても、その経験をきっかけに自分という存在を見つめ、行動を改めたり素直に謝る事が出来るようになったのは、これからの人生の何よりの財産になると確信しています。これは、幼稚園での日々の生活で「ありがとう」「ごめんさい」を繰り返す中で自然と身につけてくれた事であり、私達家族も本当に幸せな気付きをいただきました。息子を含め、私達夫婦を生まれ変わった気もちで卒園後の日々を送りたいと思ひます。ご指導いただいた先生方や職員の皆様、本当にありがとうございます。

「園のお便り」嫌だと思ふ事をやらなければいけない時、今まで私はそれなりにこなして早く終わらせる事ばかり考えていました。でも与えられた事を自分でする一杯でやってみると、世界が広がって自信に繋がるといふ事やどうしても辛くなった時、逃げたのではなく、素直に助けを求める事など、だぶん園のお便りなどで先生方の正直なお話を聞かせていただくにつれ、分かった事だと思えます。

「しんらん様の存在を教え」入園当初は、「つぶやく」やしんらん様の存在や教えなど、この子達に分かるのだろうか?という半信半疑でしたが、毎日の積み重ねや子供の素直さですごい!と思う今です。おおきくなるにつれ、子育てに悩むようになりましたが、つい最近「お母さんは間違っていないよ。僕が生れてきた事も間違っていない。だからそのままのお母さんでいて。」と言われびっくりしました。自分も相手も認める優しさ、教えが身に付いてるんだなあと感じました。このまま忘れずにいて欲しいなと思つています。あとは母の会という大変だけれど、なかなか経験できないすばらしい事に参加できて良かったです。有難うございました!!



第49回卒園生の保護者より送られた額 (保護者製作)

短 信

「自分(親)の気持ちを」一歳半のときから、幼稚園にお世話になりました。今までのいろいろな楽しい経験や園から教えていただいたこと、たくさんありますが、『自分(親)の気持ちをつぶやくこと』が私のなかで

「園のお便り」嫌だと思ふ事をやらなければいけない時、今まで私はそれなりにこなして早く終わらせる事ばかり考えていました。でも与えられた事を自分でする一杯でやってみると、世界が広がって自信に繋がるといふ事やどうしても辛くなった時、逃げたのではなく、素直に助けを求める事など、だぶん園のお便りなどで先生方の正直なお話を聞かせていただくにつれ、分かった事だと思えます。

また、相手の気持ちを想像して寄り添うことのできる寛大な心を持ち続けて成長してくれていることがとても嬉しく誇らしく思っています。感謝しております。